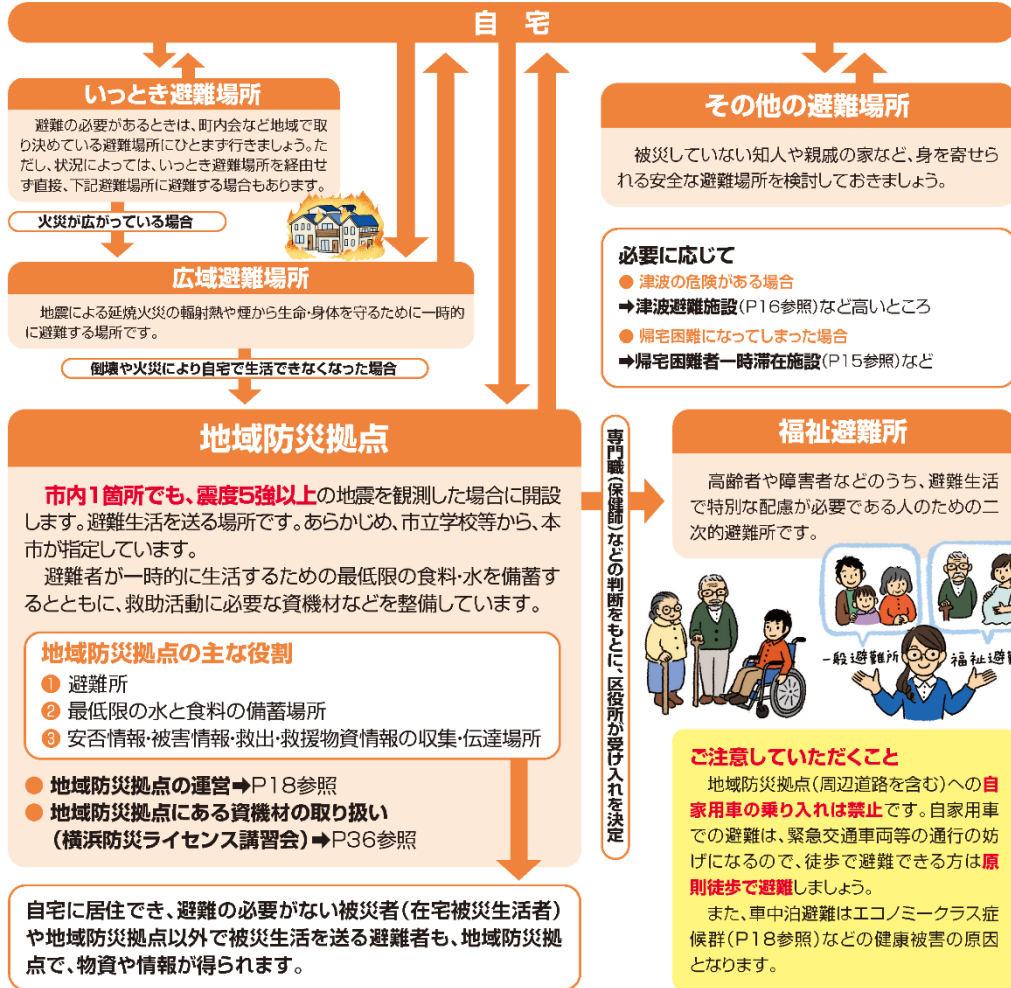


震災時の避難行動



避難する場所を知っていますか？

自宅が倒壊や火災によって危険であるときは、避難場所まで避難しましょう。
 ※周りの状況に応じて、避難ルートを考えましょう。また、危険がない場合はあえて避難する必要はありません。



風水害時の避難行動

風水害時の避難行動(避難のサイン)を確認しましょう

小石がバラバラ落下するなどの崖崩れの前兆現象や、下水道などからの浸水、河川の氾濫情報、警戒レベル3(高齢者等避難)、警戒レベル4(避難指示)といった【避難のサイン】を参考に、「**自らの判断**」で「**自らの命は自ら守る**」という考え方のもと、**危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう。**

避難のサイン(情報は早めに!)

下水道などからの浸水

河川氾濫の危険

- テレビ・ラジオ・横浜市ホームページなどで気象情報に注意しましょう。
- 横浜市ホームページなどで河川の状況を確認しましょう。
- 外の様子に注意しましょう。
※側溝やマンホールから大量の水があふれる。

土砂災害の危険

- 小石がバラバラ落下
 - 斜面に湧水が発生
 - 斜面に亀裂が発生など
- 崖崩れの前兆現象**

警戒レベル3(高齢者等避難)、警戒レベル4(避難指示)など

が、出たら…

避難行動(早めに行動!)

安全な場所へ避難

(指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域及び浸水想定区域外の親戚の家など)



水平避難
(立退き避難)

頑丈な建物の2階以上 または、近隣の 高い建物へ避難



垂直避難

やむを得ない場合は建物内の少しでも安全な場所へ退避

(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)



水平避難

危険性に応じた避難行動をとりましょう

- 1 ハザードマップを活用し、ご自宅や周辺の災害の危険性(土砂災害、洪水、高潮の危険)を確認します。
- 2 災害の危険性や浸水深等を考慮し、開設された避難場所や、危険な区域外の親戚の家などの避難場所へ避難するか、自宅での垂直避難で大丈夫かを確認します。
- 3 近くの避難場所(高台や垂直避難施設)を事前に確認しておきます。
- 4 危険を感じた場合や、警戒レベル3(高齢者等避難)、警戒レベル4(避難指示)が発令された場合には速やかに避難を開始します。
- 5 停電に備え、懐中電灯やラジオを用意しましょう。

指定避難所と指定緊急避難場所

- 指定緊急避難場所は、切迫した災害の危険から一時的に逃れるための場所で、「洪水」、「土砂災害」、「高潮」、「地震」等の災害の種別ごとに、地域防災拠点である市立学校等を指定しています。ただし、災害の規模や被害状況等により、地区センター等の公共施設や自治会館などを避難場所として開設する場合があります。
- 指定避難所は、災害によって自宅に住めなくなった場合などに避難生活を送る場所です。横浜市内では地域防災拠点である市立学校等を指定避難所として指定しています(P17参照)。「指定緊急避難場所」や「指定避難所(地域防災拠点)」の位置や避難経路を把握しておきましょう。